

第2章 豊島区の現状と課題

1 豊島区の現状と特性

1 全国一の人口密度 → 身近な場所の有効活用

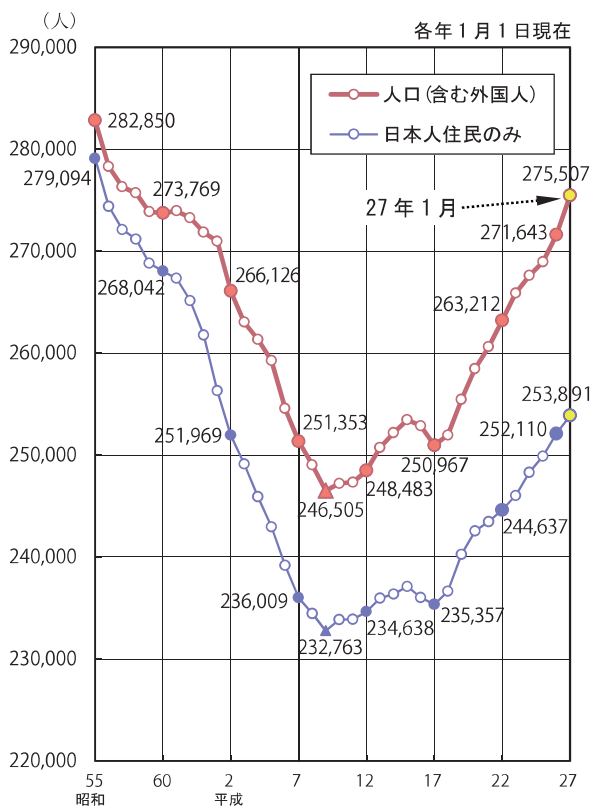
平成9年を底に平成14年まで増加傾向が続いていた区の人口は、社宅の廃止が集中したことや都市計画道路整備に伴う建物の除却などが主な要因となり、平成15年、16年の2年間一時的に減少しましたが、平成17年には再度増加に転じ、平成27年1月現在275,507人となっています。

区の人口は、平成18年3,481人、平成19年3,026人、平成20年2,155人、平成21年2,587人、平成22年2,685人と5年連続して2,000人を超える増加をしていました。平成23年は1,726人、平成24年は1,336人と一時、増加数が鈍化してきましたが、平成26年は3,864人と前年の約1.4倍の増加数となりました。

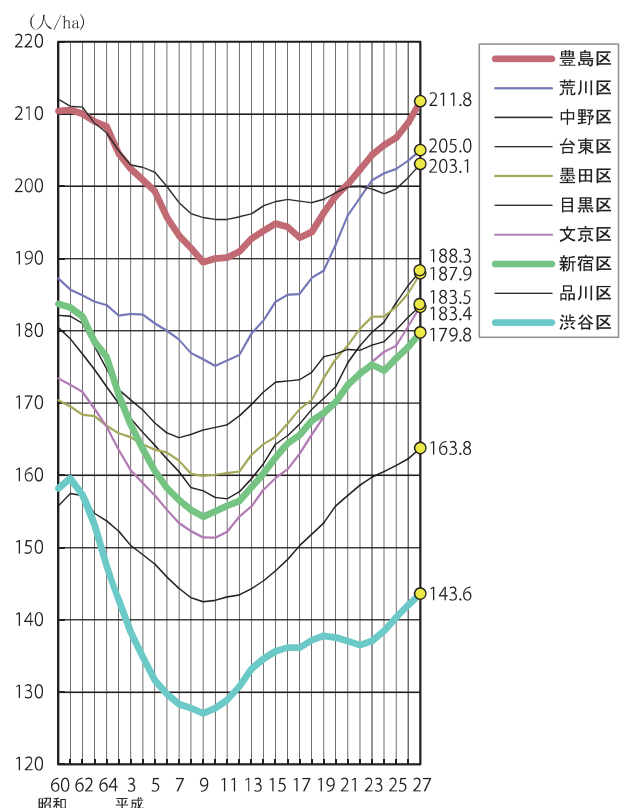
また、区の人口密度は、平成27年1月現在ヘクタールあたり211.8人となり、全国一の人口密度の高さを維持しています。

このような状況から、限られたスペース、場所を有効活用して、誰もが身近な場所でスポーツが出来る環境を整備することが重要です。

豊島区の人口の推移



各区の人口密度の推移



2 単独世帯の増加と上向き傾向のファミリー世帯 → 地域コミュニティの活性化

区の世帯数は、平成17年から平成22年までの間に約2万3千世帯増加し、166,214世帯となりました。

世帯類型別にみると、減少を続けていた「ファミリー世帯（※）」が増加し、「単独世帯」「夫婦のみの世帯」とともにすべての世帯類型で増加しています。

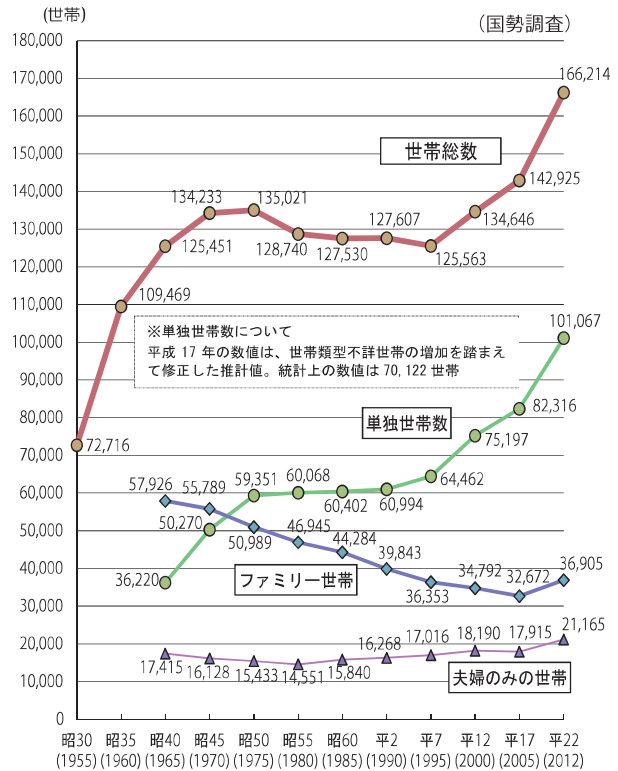
特に「単独世帯」の増加が著しく、全世帯に占める割合は、平成22年で約6割となっています。

一方、「ファミリー世帯」の世帯数は増えているものの、割合は2割強となっています。

23区の中で比較すると、「単独世帯」の割合は新宿、渋谷区に次いで高く、ファミリー世帯の割合は渋谷、新宿、中野区に次いで低くなっています。

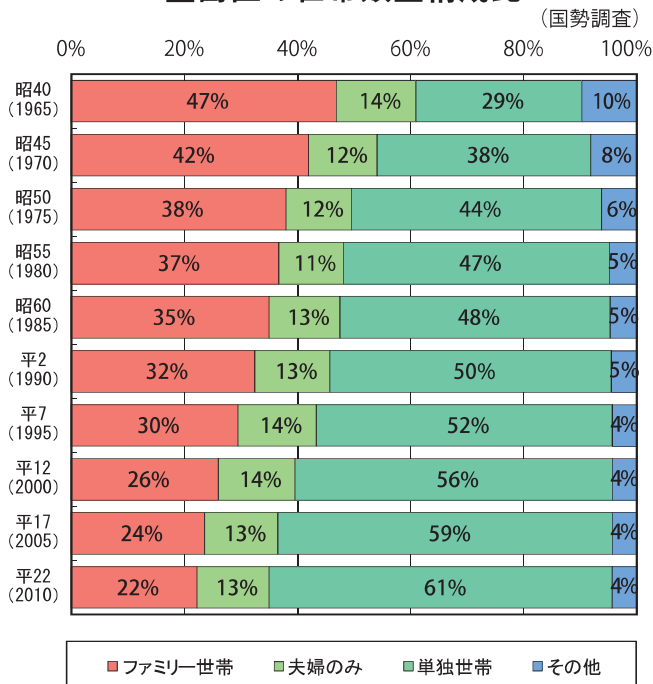
このような状況から、地域スポーツクラブをはじめ、住民相互のコミュニケーションを増加させるなどのスポーツの力を活用した地域コミュニティの活性化への取り組みが重要です。

豊島区の世帯類型別

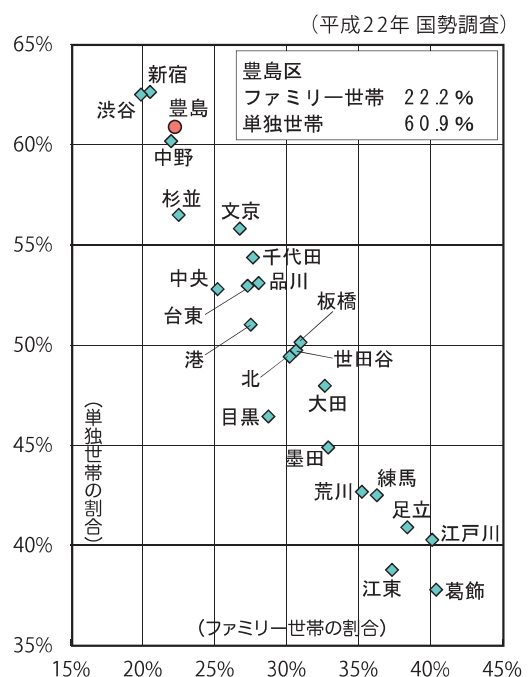


※「ファミリー世帯」は、「夫婦と子の世帯」、「ひとり親と子の世帯」、「三世帯世帯」の合計
※平成22年のファミリー世帯について、三世帯世帯の一部類型を新たに追加したため、36,149世帯から36,905世帯に修正している。

豊島区の世帯類型構成比

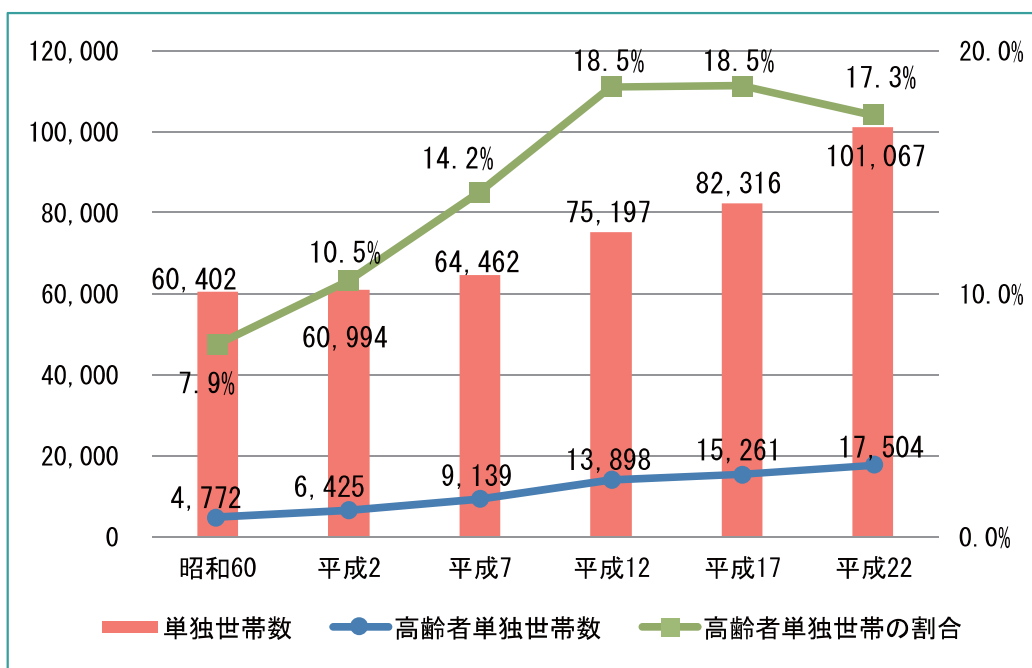


単独世帯とファミリー世帯の割合



高齢者の単独世帯数は年々増加しており、単独世帯全体の2割弱を占めています。

高齢者単独世帯の推移



各年国勢調査より

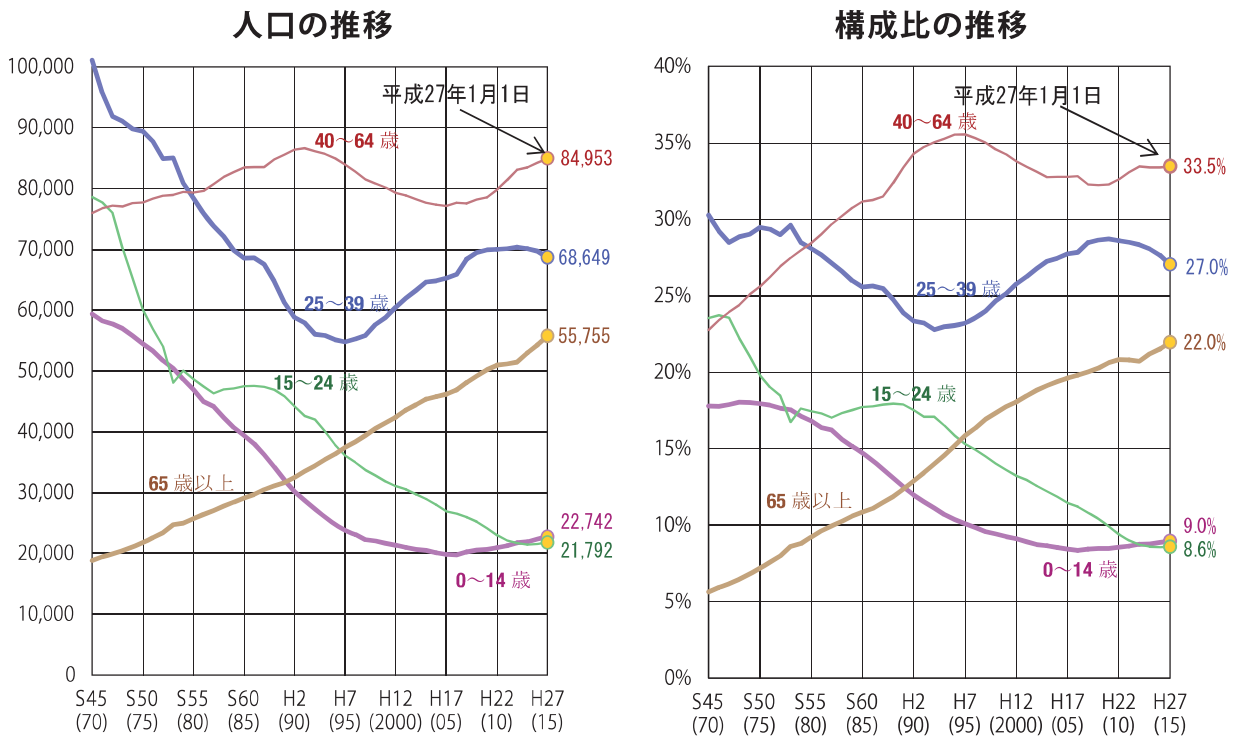


3 少子高齢化の進展 → 高齢社会に対応したスポーツの推進

年齢構成別に人口の推移をみると、平成19年以降は15～24歳を除く年齢層で増加を続けていましたが、平成25年以降では25～39歳の年齢層も減少となりました。しかしながら、0～14歳の子どもの増加は続いており、良質なマンション供給により、人口の流入が続いていることがうかがえます。

平成25年に15～24歳の年齢層の割合が一番低くなりましたが、その傾向は平成27年も続いており、前年と同じ8.6%となっています。一方、65歳以上の高齢者の割合は対前年0.5%プラスの22.0%となっています。

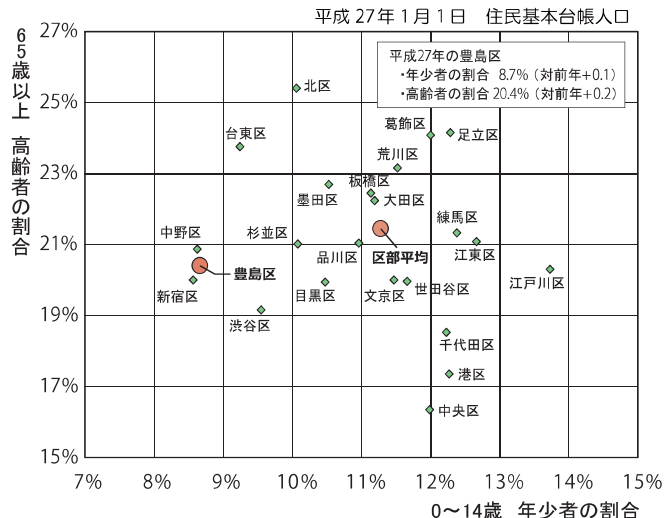
豊島区の年齢構成別人口の推移 (住民基本台帳(日本人住民のみ)：各年1月1日)



高齢者と年少者の比較

また、23区のなかで、少子高齢化の状況を比較すると、総人口に占める高齢者の割合は20.4%で、23区中14番目であり、ほぼ中間に位置しています。年少者の割合は8.7%と新宿区、中野区に次いで少なく、少子化が進んでいる状況です。

このような状況から、健康増進、地域のいきがづくりの観点からも高齢社会に対応したスポーツの推進が重要です。



4 子どもの体力低下 → 子どもの体力向上に結びつくスポーツの推進

近年、子どもたちの体力低下は全国的にも課題となっています。

豊島区における子どもの体力の現状は、小学生は男女ともに長座体前屈は全国を上回り、50m走は全国と同じもしくは上回る結果となっています。しかしながら、握力、上体起こし、反復横とび、20mシャトルラン、ソフトボール投げについては、全国を下回る結果となりました。

中学生は、50m走は全国と遜色ない結果でしたが、それ以外の項目については、全国を下回る結果となりました。

このような状況から、子どもの体力向上に結びつくスポーツの推進が重要です。

平成25年度 豊島区と全国の体力・運動能力調査結果比較

【小学生】

			握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
			(kg)	(回)	(cm)	(回)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
男 子	5年生	全国	16.9	20.2	33.4	43.1	54.7	9.2	156.5	24.8	55.8
		豊島区	16.6	19.8	33.7	41.1	48.3	9.1	154.6	23.0	55.1
	6年生	全国	19.8	22.2	35.3	45.8	64.2	8.8	165.1	29.5	61.8
		豊島区	19.3	21.2	35.8	43.1	53.3	8.8	162.4	25.6	59.3
女 子	5年生	全国	16.2	18.3	37.2	39.7	41.0	9.5	146.7	14.5	55.4
		豊島区	15.6	18.0	37.6	39.6	36.6	9.4	147.0	12.5	54.9
	6年生	全国	19.2	20.2	39.5	42.9	49.0	9.1	155.6	17.4	62.0
		豊島区	18.8	18.9	40.5	41.7	39.9	9.1	150.4	14.7	59.5

【中学生】

			握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
			(kg)	(回)	(cm)	(回)	(回)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
男 子	1年生	全国	24.7	24.4	39.2	49.3	412.2	8.4	181.9	18.5	34.9
		豊島区	23.1	23.5	36.6	46.8	438.7	8.4	176.0	17.6	31.6
	2年生	全国	30.6	27.7	43.9	52.7	381.1	7.8	199.2	21.4	43.8
		豊島区	28.4	26.5	40.2	48.6	400.6	7.9	186.2	19.4	38.8
	3年生	全国	35.6	29.8	46.9	55.1	364.0	7.5	213.8	23.9	50.5
		豊島区	33.9	29.3	45.0	51.8	378.8	7.3	205.4	23.3	47.6
女 子	1年生	全国	22.0	20.5	42.2	44.4	302.2	9.0	164.2	11.8	43.8
		豊島区	21.4	19.2	40.7	43.0	318.1	9.1	156.7	10.6	39.6
	2年生	全国	24.4	23.5	44.5	46.7	284.3	8.7	171.7	13.5	50.5
		豊島区	23.4	22.0	43.2	44.4	297.4	8.7	157.1	11.8	45.3
	3年生	全国	25.6	24.2	46.2	47.3	287.4	8.6	173.9	14.2	52.7
		豊島区	25.0	23.0	43.0	44.9	293.7	8.6	160.3	13.7	49.4

平成25年度「豊島区立小・中学校児童・生徒の体力・運動能力調査（報告）」より作成
※全国は平成24年度のデータ

5 要介護等認定者数は年々増加 → 介護予防としてのスポーツの推進

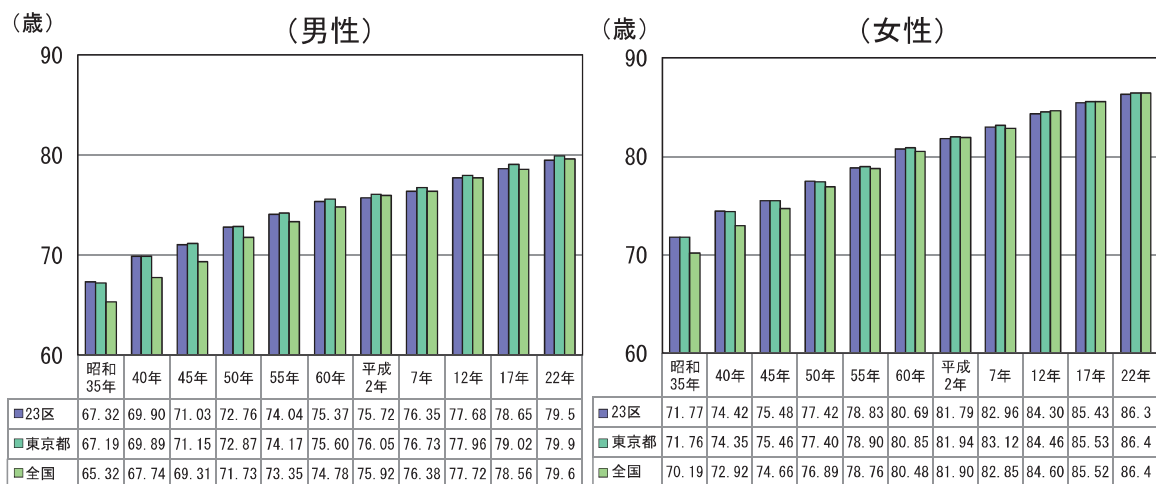
平均寿命は、男女とも伸び続けており、昭和 35 年と比較すると 10 歳以上延びています。豊島区の平均寿命（平成 22 年）は、男性 79.6 歳、女性 86.3 歳となっています。

健康寿命は、平成 24 年には男性が 80.2 歳、女性が 82.1 歳となっており、男女共に東京都より若干低くなっています。

要介護等認定者数は年々増加しており、平成 24 年度には 1 万人を超えています。また、第 1 号被保険者に占める認定者の割合も増えており、平成 24 年度は 19.3% となっています。

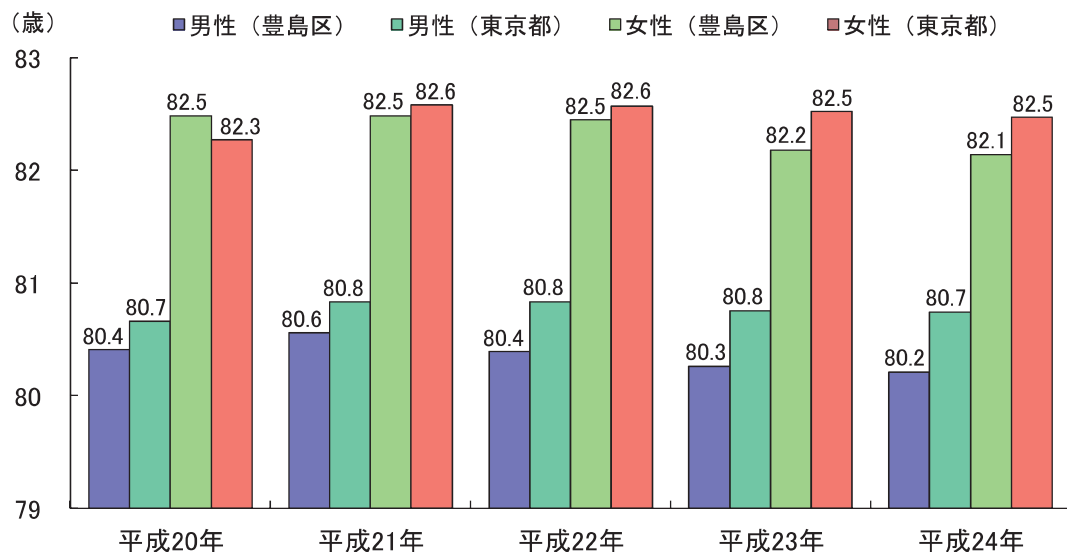
このように、年々増加傾向にある要介護等認定者数を抑えるためにも、介護予防としてのスポーツの推進が重要です。

平均寿命



東京都ホームページ「東京都生命表」をもとに作成
(平成 22 年数値は厚生労働省生命表による)

65歳健康寿命



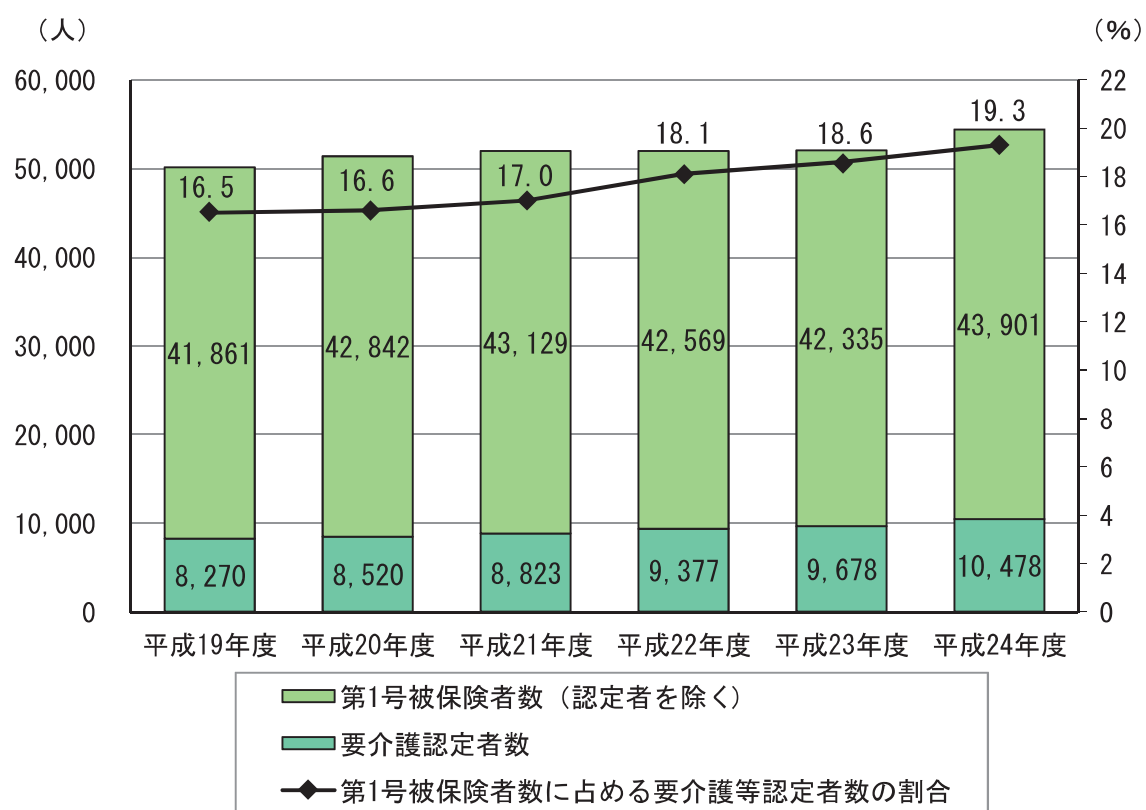
「東京都福祉保健局独自調査」をもとに作成

※65歳健康寿命（東京保健所長会方式）

65歳の方が、何らかの障害のために要介護認定を受けるまでの状態を健康と考え、その障害のために認定を受ける年齢を平均的に表すものをいいます。

65歳健康寿命（歳）＝65歳＋65歳平均自立期間（年）（平均自立期間：要介護認定を受けるまでの期間の平均、健康と考える期間）

豊島区の要介護等認定者の推移



「としまの介護保険」より

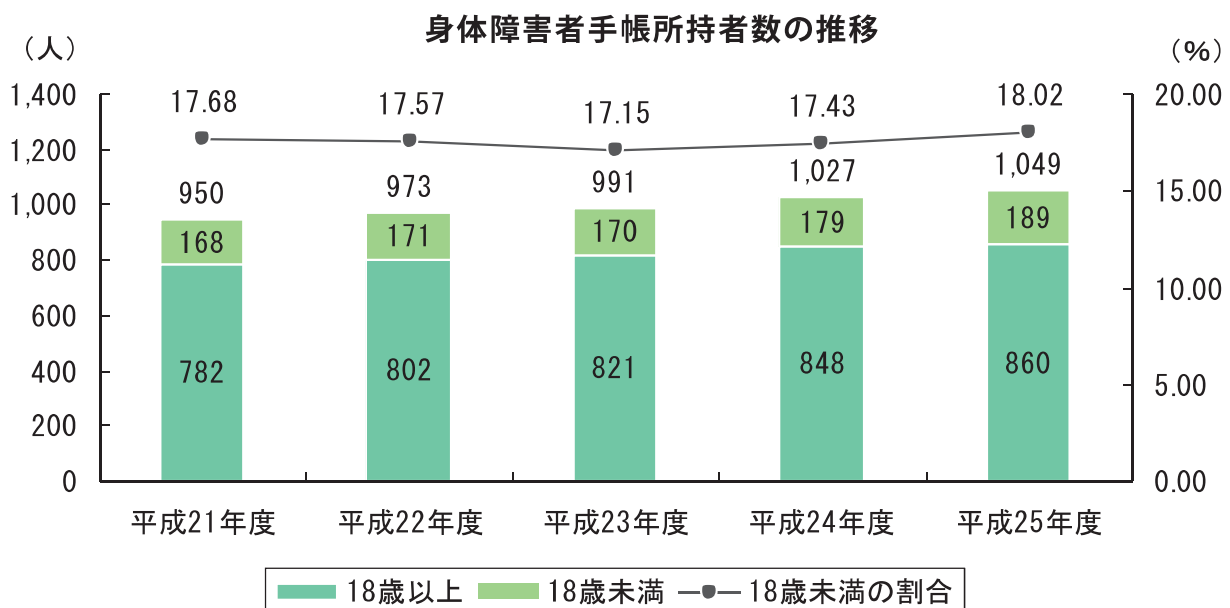
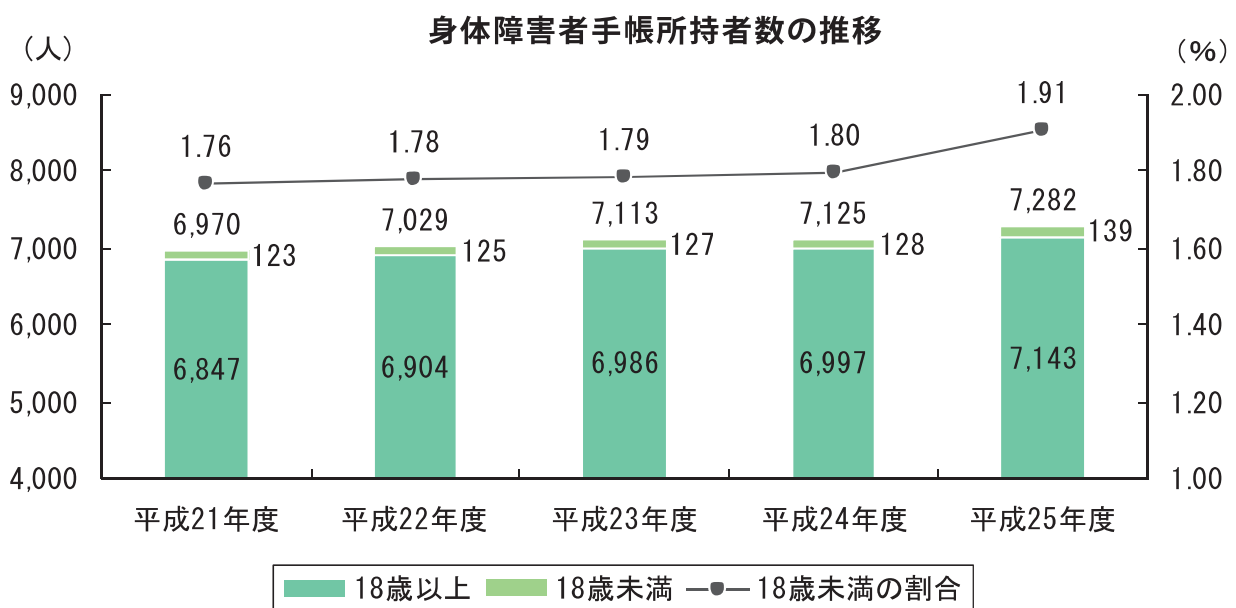


6 障害者手帳等所持者数は増加傾向 → 障害者スポーツの推進

身体障害者手帳所持者数については、平成 25 年度で 7,282 人で、近年増加の傾向を示しています。18 歳未満が占める割合についても、全体的には高いとはいえないものの、横ばいの状況から平成 25 年度は 1.91% と増えています。

愛の手帳所持者数（知的障害）は、平成 24 年度に千人を超え、平成 25 年度は 1,049 人で増加傾向となっています。18 歳未満が占める割合については、ほぼ横ばいの状況で、平成 25 年度は 18.02% となっています。

このような状況から、心身の健康の保持・増進、障害の進行の予防等の観点より、障害者スポーツの推進が重要です。



2 豊島区のスポーツ環境の現状

本区には、区内に7か所、区外に2か所の区立スポーツ施設があります。他にも学校の施設開放や民間スポーツ施設、公園や区民ひろば等の身近で多様なスポーツ環境が、区民のスポーツ実践を支えています。

1 スポーツ施設

	名 称	住 所	施 設 名	平成26年度 利用者数
①	豊島体育館	豊島区 要町 3-47-8	競技場(2面)、トレーニングルーム、 体育室	96,040人
②	巣鴨体育館	豊島区 巣鴨 3-8-7	競技場(1面)、トレーニングルーム、 温水プール	113,054人※
③	雑司が谷体育館	豊島区 雑司が谷 3-1-7	競技場(1面)、体育室、温水プール	92,298人
④	池袋スポーツセンター	豊島区 上池袋 2-5-1	トレーニングルーム、温水プール、 スタジオ	259,570人
⑤	南長崎スポーツセンター	豊島区 南長崎 4-13-5	競技場(1面)、トレーニングルーム、 温水プール、スタジオ、多目的広場	323,318人
⑥	総合体育場	豊島区 東池袋 4-41-30	野球場(2面)、庭球場(4面)、体育室、 弓射場	125,408人
⑦	西巣鴨体育場	豊島区 西巣鴨 4-22-19	庭球場(2面)、弓射場、 多目的広場(ゲートボール)	17,139人
区 外	荒川野球場	板橋区新河岸3丁目 荒川河川敷内	野球場(2面)	19,178人
	三芳グラウンド	埼玉県入間郡三芳町 大字上富382-1	野球場(2面)、庭球場(6面)、運動場	55,964人

※巣鴨体育館は、平成26年度に大規模改修工事を行ったため、平成25年度の利用者数を掲載

2 豊島区のスポーツ団体

区内には、特定非営利活動法人豊島区体育協会の加盟団体・支援団体、豊島区レクリエーション協会の加盟団体をはじめとする様々なスポーツ関係団体が活動しています。

1) 特定非営利活動法人 豊島区体育協会 加盟団体(32団体)

(平成27年4月現在)

弓道連盟	軟式野球連盟	卓球連盟	水泳連盟
ソフトテニス連盟	バレーボール連盟	柔道会	剣道連盟
スキー協会	ソフトボール協会	バドミントン協会	陸上競技協会
バスケットボール協会	サッカー協会	アーチェリー協会	ローラースケート連盟
テニス連盟	少林寺拳法連盟	なぎなた連盟	少年野球連盟
ラグビー協会	空手道連盟	レスリング協会	ゲートボール協会
ボウリング連盟	クレー射撃連盟	ダンススポーツ連盟	ゴルフ協会
合気道連盟	馬術連盟	キンボールスポーツ連盟	空道協会

2) 特定非営利活動法人 豊島区体育協会 支援団体(2団体)

(平成27年4月現在)

豊島区スポーツ少年団	地域総合型椎の美スポーツクラブ
------------	-----------------

3) 豊島区レクリエーション協会 加盟団体(6団体)

(平成27年4月現在)

ラジオ体操連盟	釣友連合会	歩こう会
歌謡連盟	バウンドテニス協会	グラウンド・ゴルフ協会

4) 総合型地域スポーツクラブ(3団体)

(平成27年4月現在)

西巢鴨中学校地域スポーツクラブ	明豊地域スポーツクラブ
地域総合型椎の美スポーツクラブ	



④ 池袋スポーツセンター



⑦ 西巣鴨体育場



西巣鴨第一

朝日

西巣鴨第二

仰高

清和第一

豊成

清和第二

朋有

南大塚

南池袋

高南第一

② 巣鴨体育館



⑥ 総合体育場



3 区民のスポーツに対する意識

平成17年3月に策定した「豊島区スポーツ振興計画」を改定する際の基礎資料とすることを目的として、「スポーツに関する意識調査」を実施しました。

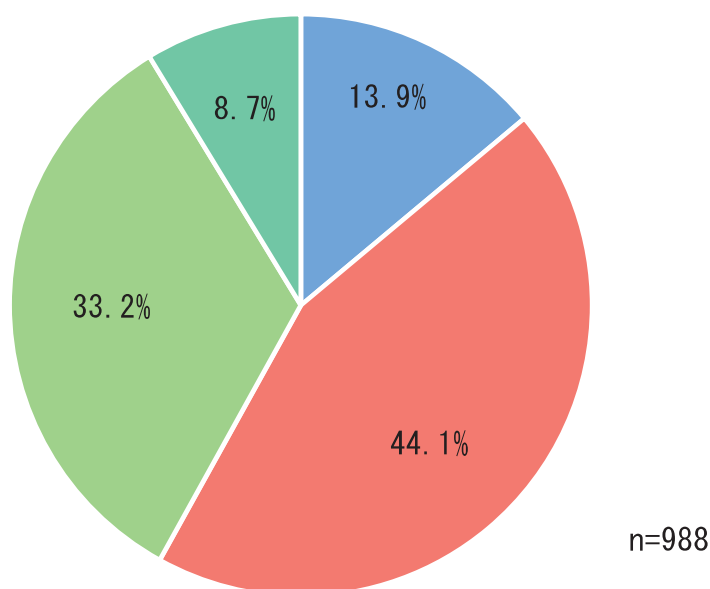
1 調査設計と回収結果

項 目	郵 送	施 設
(1) 調査対象	住民基本台帳から無作為抽出した区民 (20歳～69歳)	区立スポーツ施設利用者 ※ 施設に調査票を留め置きし、 回収箱への投函により回収。
(2) 標本数	3,000人	—
(3) 調査時期	平成24年2月4日～平成24年2月20日	
(4) 回収結果	988人 (32.9%)	402人

2 調査結果(郵送回答分のみ)

※ 平成24年3月「スポーツに関する意識調査報告書」より作成

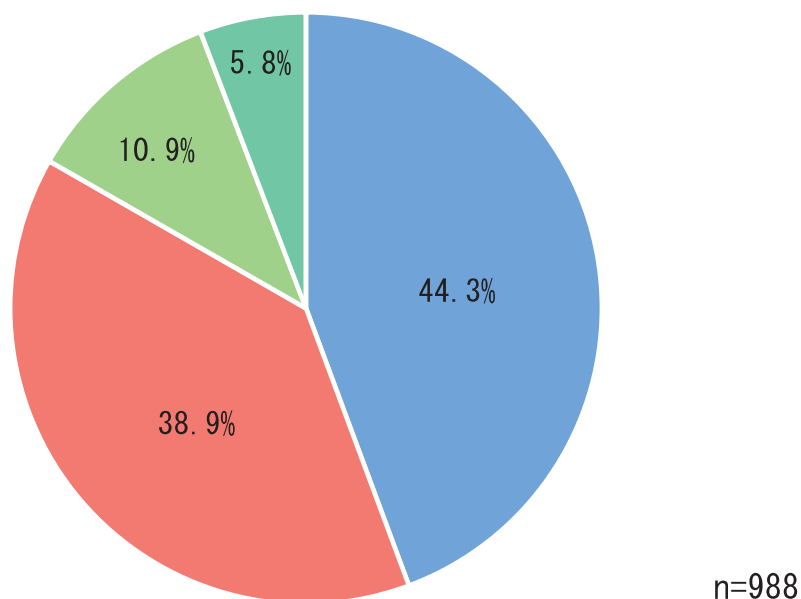
1) 体力への自信の有無



■ 自信がある ■ 自信がややある ■ 自信があまりない ■ 自信がない

体力の自信の有無について、「自信がある」、「自信がややある」の回答を合わせると、6割弱の人が『自信がある』と回答している。

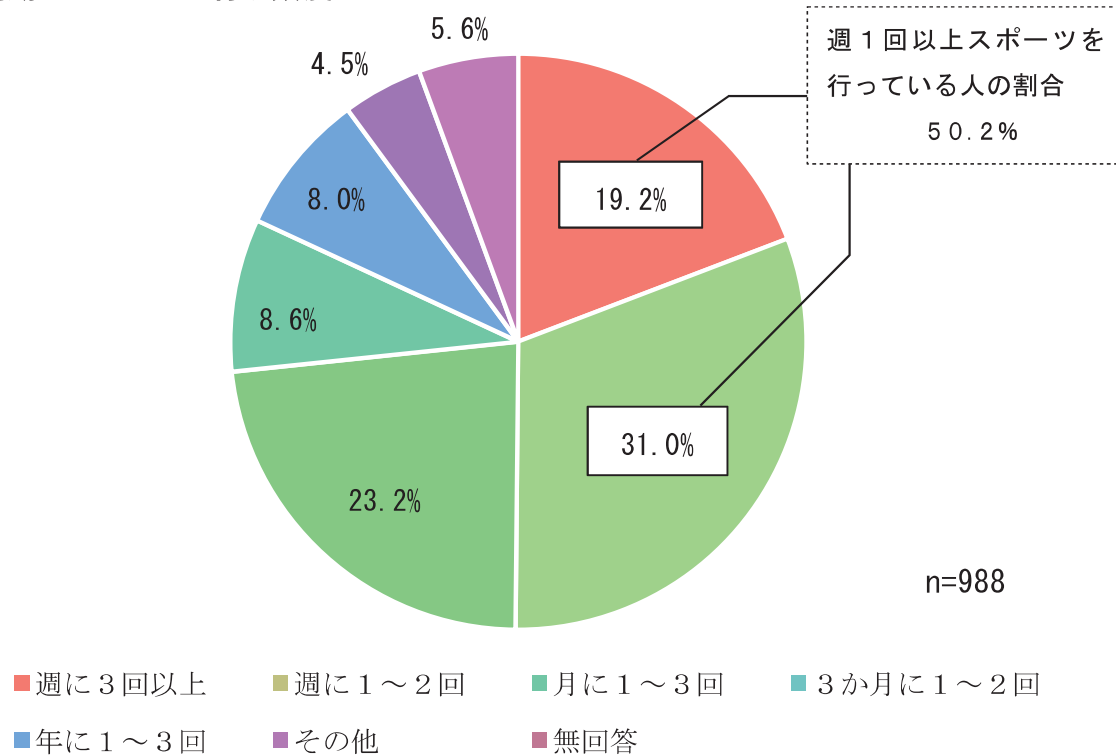
2) 運動不足の感覚



■ 感じる ■ やや感じる ■ あまり感じない ■ 感じない

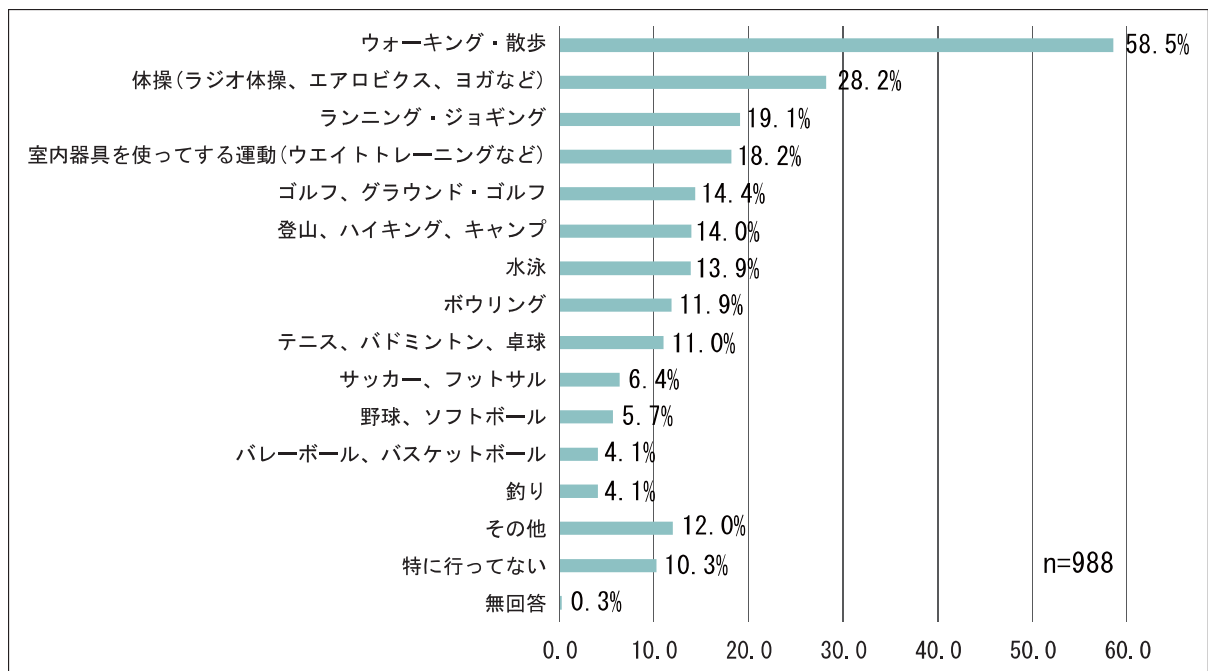
運動不足の感覚について、「感じる」、「やや感じる」の回答を合わせると、8割強の人が『感じる』と回答している。

3) 運動・スポーツを行う頻度



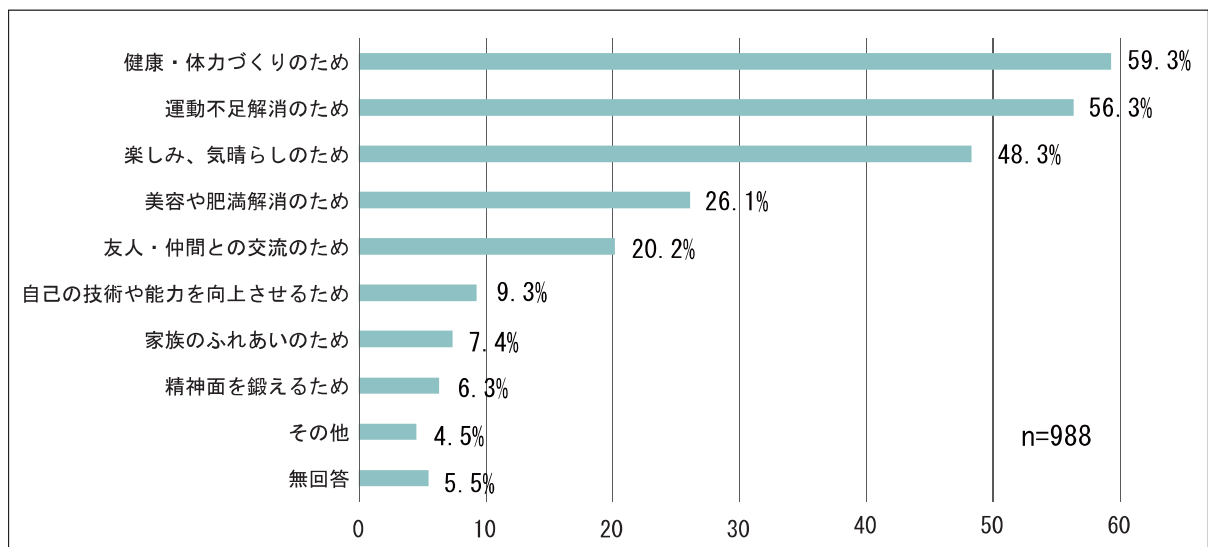
運動・スポーツを行う頻度について、週に1回以上行っている人の割合は約5割となっている。月に1回以上となると、約7割の人が運動・スポーツを行っていると回答している。

4) 1年間に行った運動・スポーツ(複数回答可)



1年間に行った運動・スポーツについて、「ウォーキング・散歩」、「体操」、「ランニング、ジョギング」、「室内器具を使ってする運動」など、個人でできるものの割合が高い。

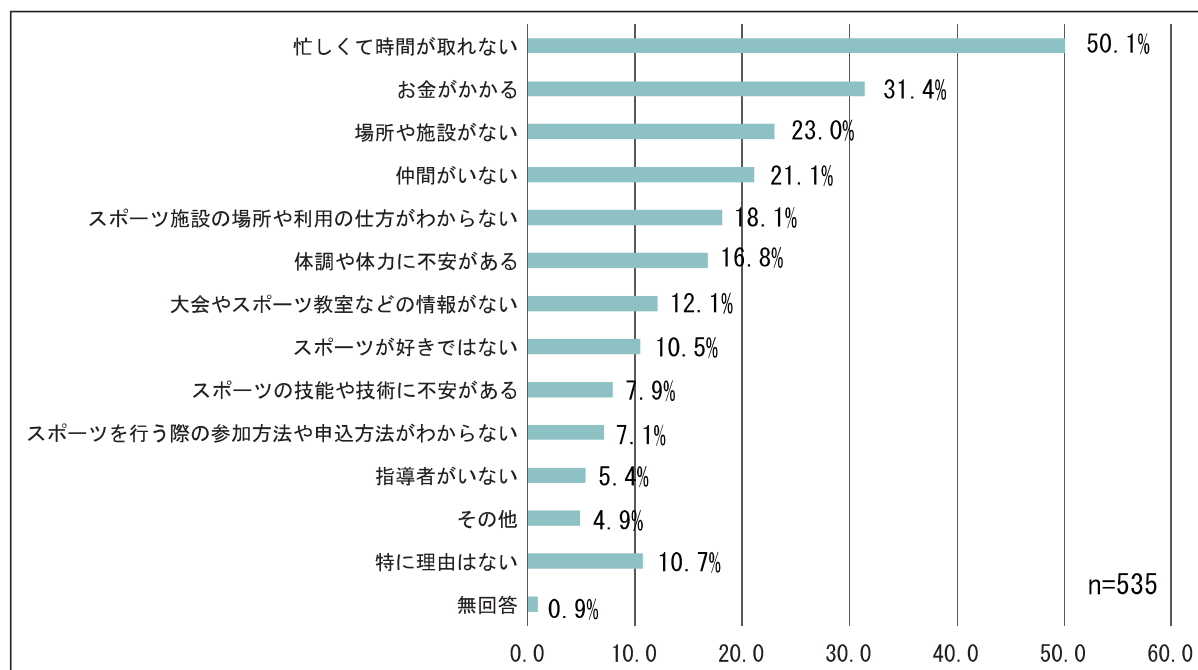
5) 運動・スポーツを行う理由(複数回答可)



運動・スポーツを行う理由について、約6割の人が「健康・体力づくりのため」と回答している。「運動不足解消のため」が2番目に多い回答となっている。

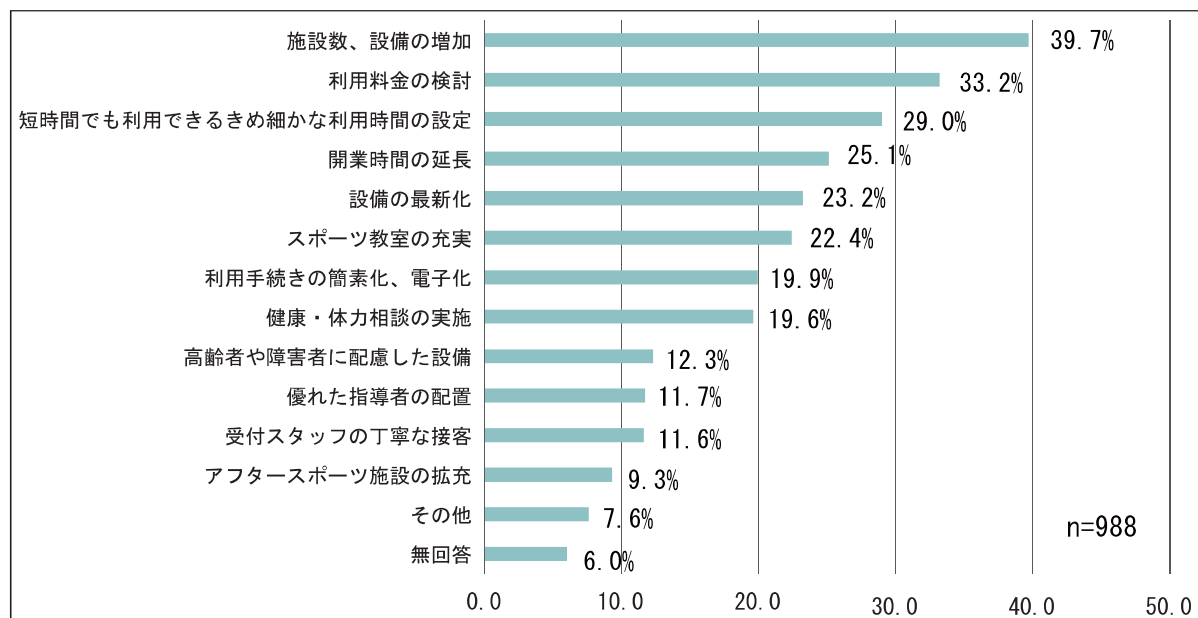
6) 運動・スポーツを行っていない理由(複数回答可)

(普段の生活で運動やスポーツを行っていないと回答された方のみ回答)



運動・スポーツを行っていない理由について、普段の生活で運動を行っていない人の半数が「忙しくて時間が取れない」と回答している。また、約3割の人が「お金がかかる」と回答している。

7) スポーツ施設に対する要望(複数回答可)



スポーツ施設に対する要望について、1番目に多かった要望は「施設数、設備の増加」と約4割の人が回答している。2番目に多かった要望は、「利用料金の検討」と3割強の人が回答している。その他に、「短時間でも利用できるきめ細かな利用時間の設定」、「開業時間の延長」、「設備の最新化」、「スポーツ教室の充実」と回答した人が2割を超える、高い要望となっている。

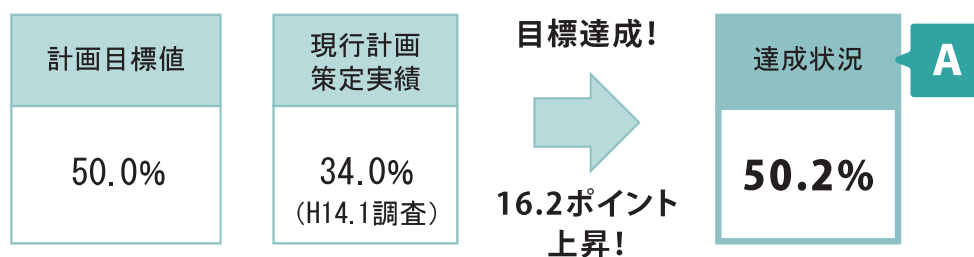
4 「豊島区スポーツ振興計画」の目標の達成状況

前計画では、プラン実現のための具体的目標として「豊島区民のスポーツ実施率（週1回以上）を34%から50%に高める。」こととしており、その他にも、いくつかの取り組むべき施策の方向性が示されています。その取り組みの結果・成果については以下のとおりです。

進捗状況評価について

A：計画・想定を上回っている B：計画通り・対応できている C：未達成・不十分

1) 区民のスポーツ実施率（スポーツを行う頻度が週1回以上）



2) 健康づくりのための施策の充実

(1) 健康運動推進事業の充実

計画	達成状況
保健所や医療機関等と連携し、区民一人ひとりの体力に応じ参加ができる健康づくり教室やセミナーを実施します。	民間事業者、地域団体等が連携して、健康づくりに気軽に取り組み、健康習慣を身につけてもらう「健康チャレンジ！」事業を実施している。また、各体育施設の指定管理者が実施している自主事業も年々充実してきており、区民一人ひとりのニーズに沿った事業を展開しています。

(2) ユニバーサルデザインによる施設整備

計画	達成状況
障害者、健常者、外国人も一緒に利用できる施設を整えます。	高齢者、車椅子使用者、乳幼児連れなど、様々な人が施設を利用しやすいよう、一部施設においてエレベーターやスロープ、誰でもトイレを設置しました。 また、外国語での案内表示を掲示するなど、ユニバーサルデザインに配慮した施設運営を行っています。

3) 新たなスポーツ人口拡大のための施策の充実

(1) ユニバーサルスポーツの推進

計画	達成状況	A
高齢者も障害者も子どもも女性も男性もすべての人々が人種や年齢、身体的条件に関わりなく、興味や関心に応じて誰でも参加できるユニバーサルスポーツを推進します。	スポーツ推進委員が高齢者を対象に「ボッチャ体験教室」を実施している。また、目白福祉作業所がスポーツ祭東京 2013(国民体育大会)ユニバーサルホッケー大会障害者の部に参加するなど、着実にユニバーサルスポーツが推進されています。 また、体育施設指定管理者が、子どもや高齢者向けの体操や水泳の教室を実施するなど、誰もがスポーツに参加できるプログラムを展開しています。	

(2) 子ども達の遊び場の充実

計画	達成状況	B
学校の校庭を活用し、幅広い年代の子どもが気軽に集まる環境づくりを進めます。 地域のスポーツ指導者を配置し、小学校ごとにサッカー教室や野球教室などの教室を行います。	子ども達が自主的な参加のもとに遊びを通して交流を広げる環境として、小学校施設を活用して運営している「子どもスキップ」があります。そこで行われている放課後子ども教室において、サッカー教室や野球教室などの各種教室を開催し、子ども達の体験の場を充実させ、スポーツに興味を持つきっかけ作りをしています。	

(3) 多様な志向に応じたスポーツの推進

計画	達成状況	A
家族で参加ができる大会や都市間スポーツ交流事業の充実を図り、家族や地域の連帯感を養いながらスポーツ人口の拡大を図ります。	区民体育大会等の日頃の練習成果を発揮する場となる各種大会を年間を通して開催しています。また、スポーツ少年団への支援や親子スポーツ教室を実施するなど、家族や地域の連帯感を醸成しながらスポーツ人口拡大を図る取組を継続的に実施しています。 秩父市との親善交流大会や城北五区(豊島区、北区、板橋区、練馬区、荒川区)との親善交流大会などが盛んに実施されています。	

4) 学校を核としたスポーツ活動の充実

計画	達成状況	B
学校のクラブ活動の種目充実と外部指導者の活用により、生徒の多様なニーズに応えます。	中学校の部活動について、積極的に外部指導員を活用することにより、生徒達にスポーツの楽しさや喜び、学校生活に豊かさをもたらす機会を創出しています。	

5) 指導者・スポーツボランティアの育成及び活用

(1) 体育指導委員の活用

計画	達成状況	B
体育指導委員の資質向上を図り、区民のスポーツ活動全般にわたるコーディネーターとし、スポーツやレクリエーション活動を推進します。	スポーツ基本法の施行により従来の「体育指導委員」は「スポーツ推進委員」となったが、様々な研修に参加し、情報収集に努め、資質向上を図っています。そして、その研修成果を各種事業にフィードバックしています。	

(2) 指導者の確保

計画	達成状況	C
スポーツサポーター制の導入により、スポーツ教室等への派遣依頼に応えられる体制づくりを目指します。	スポーツサポーター制を導入できていないため、福祉施設等からのスポーツ教室への指導依頼に対しては、スポーツ推進委員が対応しています。	

6) スポーツ施設の再構築と新スポーツ施設の建設

計画	達成状況	A
健康増進施設の機能を有する総合スポーツ施設を東部地域と西部地域に整備します。	「南長崎スポーツセンター」を開設しました。また、平成 26 年度には老朽化が進んだ巢鴨体育館の大規模改修を行い、今後もしばらくの間運営することとなりました。	

7) 公園等の活用

計画	達成状況	B
公園や緑道等で、誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる「健康運動ひろばネットワーク」を検討します。	公園改修時には健康遊具を設置し、また、高齢者や障害者が園内でウォーキングを楽しめるよう段差を無くすなど、健康運動に配慮した整備を行っております。また、ボール遊びができる公園の試行を実施するなど、公園の利用ルールの弾力化について検討を進めています。	

8) 区立小中学校のスポーツ施設の活用推進

計画	達成状況	C
区立小中学校の建替え時に学校教育に配慮しつつ総合型地域スポーツクラブの活動できる場の整備を検討します。	一部の小学校で、地域利用の可能な多目的教室や更衣室を設置しています。 今後改築予定の学校についても同様に、学校開放用として活用できる教室等を設置することを検討しています。	

9) 情報化の推進

計画	達成状況
ホームページでの情報提供や、スポーツに関する相談ができるシステムを構築します。 また、各スポーツ施設にパソコンを配置し、スポーツ施設予約システムの整備を検討します。	区ホームページで各種スポーツ大会、スポーツ施設の情報提供を行っています。また、平成25年度からスポーツ施設の予約の受付、管理を行う「豊島区公共施設予約システム」を導入しました。 区体育施設における施設案内・事業案内については、各施設の指定管理者がホームページにより情報提供を行っています。

10) 既存スポーツ施設運営方法等の見直し

計画	達成状況
スポーツ施設の管理・運営に、指定管理者制度を導入します。	現在、区のスポーツ施設はすべて指定管理者制度を導入しており、民間事業者等有するノウハウを活用して、区民サービスの質の向上を図り、また、管理経費等を削減することが出来ています。

11) 企業や区内大学、医療機関等との連携

計画	達成状況
民間スポーツ施設、大学、企業にスポーツ教室への指導者派遣や施設利用などの協力を求め、その指導能力と施設を区民のスポーツ育成に活用します。	「健康チャレンジ！」事業において、民間スポーツ施設、スポーツ関連企業との利用体験制度や区民向け運動講座を展開しています。 また、池袋スポーツセンターでは、豊島区医師会から医師を派遣してもらい、定期的に健康相談を実施しています。

12) 総合型地域スポーツクラブへの育成支援

計画	達成状況
様々な年代層が生涯にわたりスポーツを継続するために総合型地域スポーツクラブの育成・支援を行います。また、将来的に総合型地域スポーツクラブを小中学校毎やスポーツ施設に増やし、身近にスポーツができる機会を増やしていきます。	現在区内には、「西巢鴨中学校地域スポーツクラブ」、「明豊地域スポーツクラブ」、「NPO 法人地域総合型椎の美スポーツクラブ」の3クラブが活動しています。新たなスポーツクラブを立ち上げるには、活動場所や運営する地域住民の確保など様々な課題が多く、クラブ数を増やすことは出来ませんでした。

5 スポーツ活動の推進に向けた課題

スポーツを取り巻く社会環境の変化、国や都のスポーツ推進施策の動向、区のスポーツ環境や区民のスポーツに対する意識、区のこれまでのスポーツに関する取組などを踏まえ、本区のスポーツ推進に求められる課題として、以下の項目が挙げられます。

子どもがスポーツに触れる機会の充実

課題 1

近年、子どもの体力は回復傾向にあるものの、運動をする子としない子の二極化が問題となっています。また、少子化の進展に伴い、スポーツをする子どもの数は減少傾向にあります。子どもの体力向上に向け、子どもがスポーツに触れる機会を充実させ、スポーツに親しむ習慣や取り組む意欲を養うことが必要です。

若い年齢層（20歳代、30歳代）のスポーツ実施率の向上

課題 2

20歳～30歳代の若い年齢層のスポーツ実施率が低い傾向にあります。若い世代がスポーツを実践することが困難な要因を分析し、スポーツへの参加機会を拡充することが必要です。

高齢者の健康づくり、介護予防のためのスポーツへの参加機会の充実

課題 3

高齢者のスポーツは、生きがい、健康づくり、介護予防、地域との繋がりの確保など果たす役割が大きいため、本格的な超高齢社会を見据え、高齢者のスポーツへの参加機会の充実を図ることが必要です。

障害者スポーツの振興

課題 4

誰もがスポーツを楽しめる社会を実現するため、障害者スポーツの普及啓発、環境整備、障害者スポーツを支える人材の育成・確保など、障害者スポーツを推進することが必要です。

指導者の育成

課題 5

スポーツの指導者は、スポーツを支える重要な要素の一つです。豊島区のスポーツを推進していくためにも、指導者の確保と質的な充実を図ることが必要です。

地域スポーツを支える組織の充実

課題 6

豊島区のスポーツを推進していくため、区民のスポーツ・レクリエーション活動の普及振興を図る上での重要なパートナーであるスポーツ・レクリエーション関係団体との連携・協力体制を強化し、地域スポーツを支える組織の充実を図ることが必要です。

スポーツを行う環境の整備

課題 7

スポーツは体育施設に限定されず、多様な場所で行われています。道路や公園でのウォーキングやジョギング、区民ひろばでの健康体操など、区民にとって身近な場所でスポーツをすることができる環境の整備を図ることが必要です。

スポーツに関する効果的な情報提供

課題 8

区民にスポーツに興味を持ってもらい、スポーツに取り組んでもらうためには、求められている情報を、必要としている方へ効果的な方法で情報提供することが必要です。

アスリートの育成

課題 9

オリンピック・パラリンピックをはじめとする国際スポーツ大会等で活躍する選手の姿は、区民の誇りや希望、そして大きな喜びをもたらします。また、次世代を担う子ども達にとっても、スポーツに対する夢や憧れを抱き、自らスポーツに取り組むきっかけとなることから、豊島区出身のアスリートの育成を図ることが必要です。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴う環境の整備

課題 10

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、2016年リオデジャネイロ大会後には、文化プログラムが始まります。その後、数年のうちに会場となるスポーツ施設が雄姿を現し、代表選考レースが激化するなど、今後、急速な勢いでオリンピック・パラリンピックへの気運が高まってくるが見込まれます。

多くの区民が、これまでも増してスポーツへの興味・関心を高める、この機会を捉え、誰もがスポーツを楽しみ、スポーツを支え、スポーツを育てる活動へと繋げていくことが必要です。